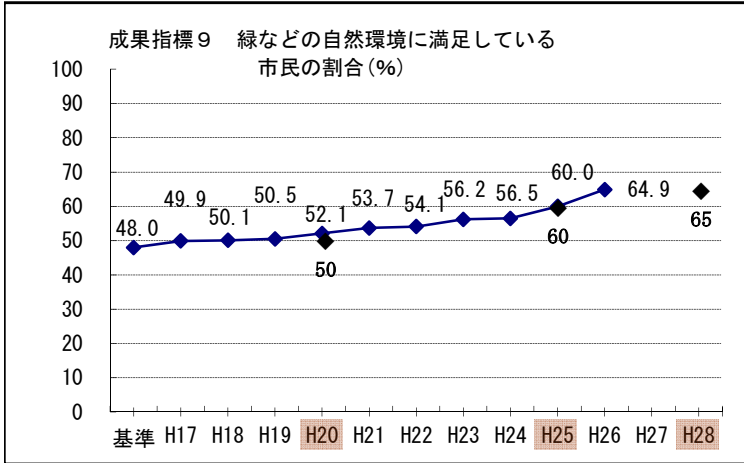


| | |
|------|--------------------------|
| 柱 | 2 生活環境 |
| 分野 | E 自然 |
| ビジョン | 次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全 |



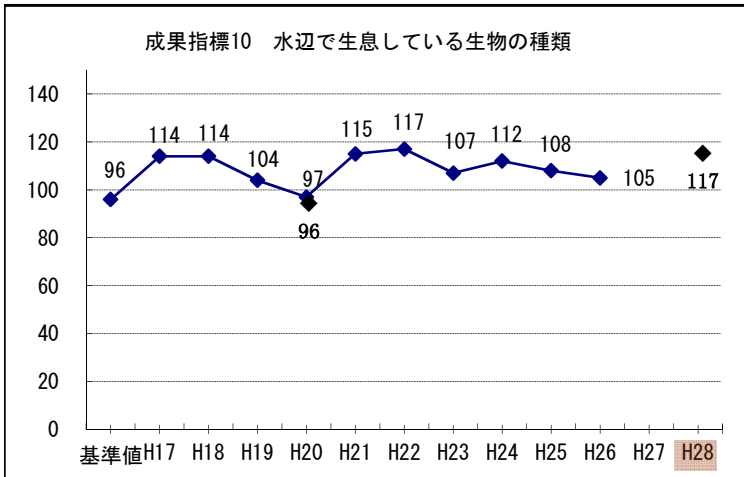
主な事業
 保全地区・保存樹木の指定
 松くい虫防除事業
 加木屋緑地整備事業
 緑陽公園の整備
 保全計画事業

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

平成26年度の緑などの自然環境に満足している市民の割合は、昨年度よりも4.9%の増加、基準値よりも16.9%の増加となり、順調に目標値達成に向かってい。現行の施策を継続するとともに、緑の基本計画に基づき、さらなる緑地の保全と創出に努めていく必要がある。



主な事業
 河川ため池水質浄化事業
 東海市エコスクール

計画通りに成果が上がっているか

目標達成
 順調
 順調でない

成果指標の分析

平成26年度は昨年度と比較し、生物が3種類減少しているが、調査の時期や天候等により確認できない場合もあり誤差の範囲内と考える。

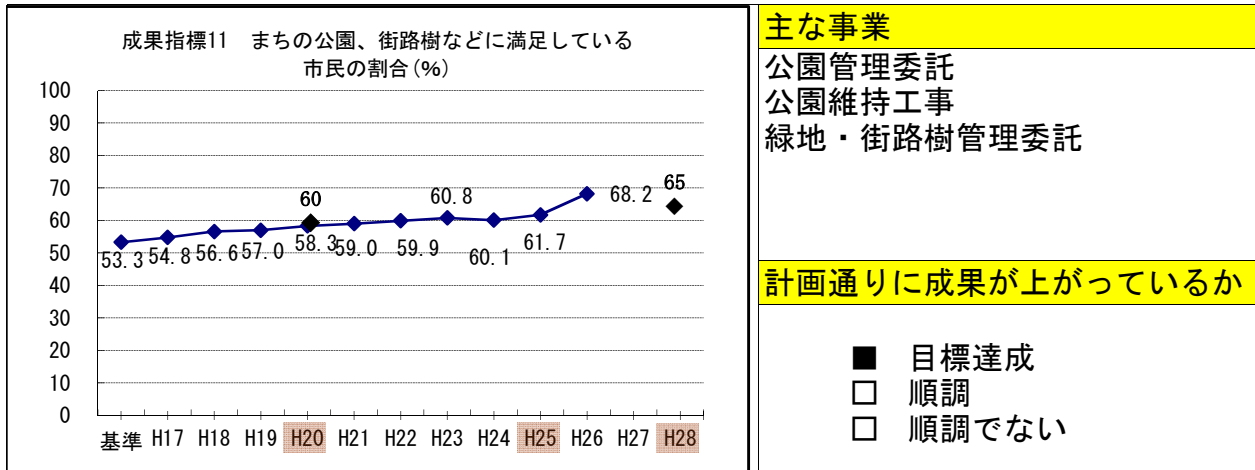
成果が向上する余地（可能性）は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

緑の基本計画に基づき加木屋緑地や緑陽公園等の整備・保全を進めるほか、保全地区・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施することにより成果向上の余地はある。

下水道の整備や河川に関するエコスクールの開催により、河川環境に対する啓発や意識向上を行っていく。生物の種類については、調査の方法等について今後の検討が必要と考える。

| | |
|------|------------------|
| 柱 | 2 生活環境 |
| 分野 | F 公園・緑地・景観 |
| ビジョン | 花と緑あふれる心安らぐまちづくり |



成果指標の分析

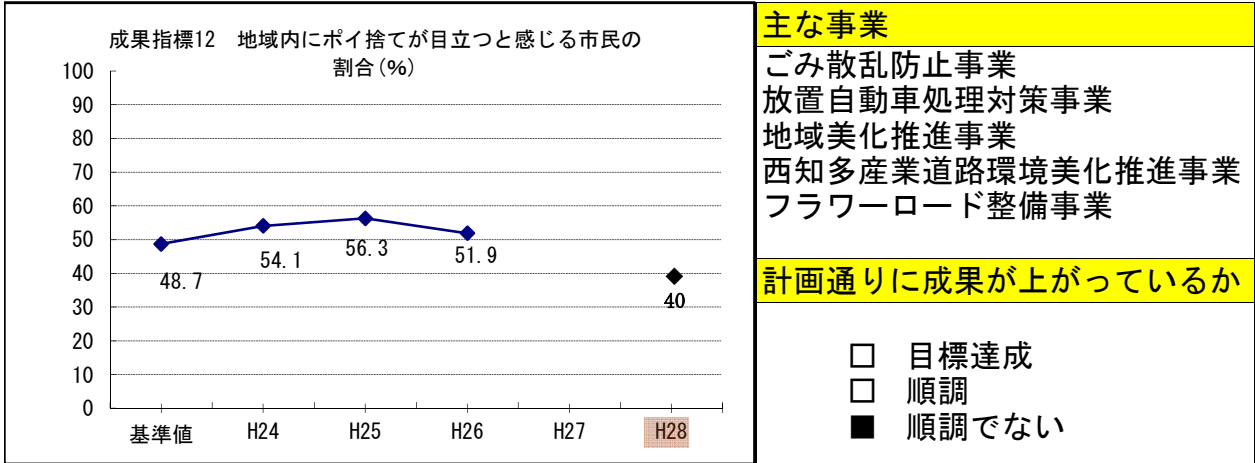
平成26年度のまちの公園、街路樹などに満足している市民の割合については、昨年度より6.5%の増加、基準値よりも14.9%の増加と順調に増加し目標値を達成した。市内公園の管理や加木屋緑地の整備の推進が、数値が大きく向上した要因ではないかと考える。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくりを進めていくことにより成果向上の余地はあると考えている。

| | |
|------|--------------------------|
| 柱 | 2 生活環境 |
| 分野 | G 環境美化 |
| ビジョン | 道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち |



成果指標の分析

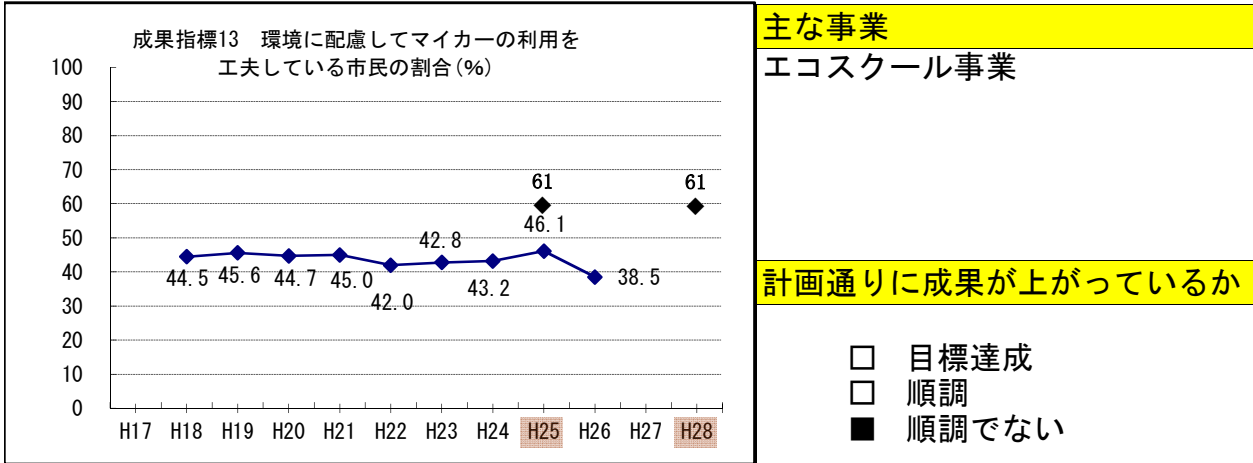
平成26年度は、昨年度よりも4.4%向上した。不法投棄されたゴミの回収量は年々減っていることから、市民のゴミ問題に対する意識レベルの向上に繋がり、成果指標の割合の減少に繋がったのではないかと考える。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針

今後も、道路や公園などにポイ捨てをしないよう市民のモラル向上が必要であり、そのためには啓発活動や地域美化活動の促進を図ることが必要である。

| | |
|------|-----------------------|
| 柱 | 2 生活環境 |
| 分野 | H 交通 |
| ビジョン | 環境に配慮した安心便利な交通システムの整備 |



成果指標の分析
 平成26年度は、昨年度と比較すると、7.6%と大きく減少し平成18年度以降で最も低い値となった。工夫の内容としては、マイカーの使用を控えると答えた方の割合が多く、次いでアイドリングストップをしていると答えた方の割合が多かった。

成果が向上する余地(可能性)は？ 大 中 小

成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針
 環境保全に配慮した市民、企業の活動を促進するためのエコスクール事業や啓発事業等の内容を見直し、充実させることにより、成果向上する余地がある。